

羽衣国際大学 令和五年度入学式 式辞

春爛漫の今日の佳き日、ここに羽衣国際大学令和五年度入学式を挙行できますことは、本学にとって大きな慶びです。

ただいま現代社会学部 二〇七名、人間生活学部 一三一 名、合計三三八名の入学を許可いたしました。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。またこのたび入学される新入生を育て、支えてこられたご家族の皆様も、たいへんお喜びのことと存じます。本日は、羽衣国際大学の教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。

三年前から始まった新型コロナウイルス感染症の蔓延は、ようやく出口が見えてまいりましたが、本日の入学式は慎重を期し、ご来賓はお招きせず、新入生の皆さんと少数のご家族の方々、そして大学教職員のみで、規模を縮小して執り行うことと致しました。ここに改めてお詫び致しますとともに、ご理解を賜りたくお願い申し上げます。

本日入学される皆さんの高校での三年間は、ちょうど新型コロナウイルスに

よるバンデミックと重なり、高校や塾などに通うことも、各種の課外活動もままならず、辛い思いをされてきたと思います。不安と闘いながら高校生活を送り、進学の準備を進め、本日の入学式を無事迎えられることに、心からお祝い申し上げます。

さて本学は一九二二(大正十二)年に、鳥村育人先生らによって設立された羽衣高等女学校を起源としています。女子に高等教育は不要であるという当時の常識に異を唱え、女性もまた豊かな教養と高度な専門知識を持つた社会人とならなければならないという信念のもとに設立されました。鳥村育人先生は、羽衣高等女学校第一期生に大きな期待と誇りを持って、「あなたが本校に在学なすることは本校の名譽であります」という言葉をかけられました。私もまずこの言葉を新入生の皆さんに贈りたいと思います。

戦後、羽衣高等女学校は、羽衣学園中学校・高等学校となり、一九六四(昭和三九)年には羽衣学園短期大学が設立されました。その後二〇〇二(平成一四)年に短期大学を一部改組転換して、男女共学の四年制大学として設置されました。今年、大学は開学二十一年目を、そして羽衣学園は創立百周年を迎えます。

学園の建学の精神は、『愛真教育』を基盤とした『自由・自主・自律・個性尊重の人間教育』です。これを言い換えるならば、「時代の常識を疑い偏見や臆断から自由であること、つねに自主的に物事に取り組み考えること、

謙虚さを持って自らを律すること、そして自ら同様に他者の個性を尊重する「人間性育成の精神」です。このような人間性を備えた「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」こそ、本学の目的・使命であると考えています。

世界を見渡すと、昨年二月のロシアによるウクライナ侵攻によって、ウクライナとロシアの多くの若者が命を落とし、侵攻後の国際社会の情勢は、残念ながら「共生」とは逆に「分断」に向かっているように感じます。

本学では、開学当初から多くの留学生在が学び、社会に巣立ちました。今日もまた故郷を遠く離れ、ここ羽衣の地で学ぶ意欲を胸にした多くの留^{きょう}学生を、本学の一員として迎えることができました。新入生の皆さんには、国籍を問わず学生同士の交流を深め、文化的背景の異なる友人を見つけてくれることを願っています。そして自らの文化と異文化に関する知識を身につけた、開かれた精神で他者に接することのできる人になってほしいと思います。

また、シリアでの内戦はウクライナでの戦争よりさらに長く十年以上続いています。多くの人々が難民としての生活を余儀なくされるなか、先月トルコとシリアにまたがる地域を大きな地震が襲い、困難な状況がさらに悪化しました。十二年前に東北地方を襲った東日本大震災でも多くの方々が犠

犠となりましたが、トルコ・シリアの地震の大きさはマグニチュード七・八で、マグニチュード九・〇を記録した東日本大震災より小さかったにもかかわらず、犠牲者の数はその倍以上となり、実に五万人を超えました。

その原因のひとつが耐震偽装や新しい耐震基準に合わせた改築が間に合っていないなかったことでした。建物を支える鉄骨に基準以下の強度しかないものが使われていたため、多くの建造物が崩壊しました。

鉄骨は、外観からは見えないところでしつかりと建物を支えてくれているものです。表面には表れない、目に見えない、しかし最も重要なもの、それは建物の鉄骨に限らず、数多くあります。新入生の皆さんには、ぜひ表面的な現象にとらわれず、物事の本質を見極める力を養ってほしいと思います。

今日から始まる大学生活の四年間は、多くの新入生の皆さんにとって、社会に出る前に学びに専念できる、最後の貴重な時間です。高校までの、ともしれば受け身になりがちであった学びの姿勢をリセットして、さまざまなことについて「そういうもの」として受け流すのではなく、一歩立ち止まって「なぜ、そうなのか」と疑問を持ち、ひとつひとつの疑問を母念に追究してください。そして教員と学生の間で、また学生同士で学び合う場である大学で、自らの考えを培い、自分自身の未来像を描き、大きく変化する時代に力強く羽ばたく力を養ってください。

在学中には、地域、企業、自治体などと連携した学外での学びや海外への

留学など、オフ・キャンパスで学ぶ機会をぜひ活用して、日常生活では触れにくい現実には接し、広い世界を実感してほしいと思います。

さまざまな専門分野で研究や活動を実践する教員や、皆さんの学生生活全般を支援する職員が、ともに皆さんの成長を心から願っています。

新入生の皆さんが本学入学をご自身の新たな出発点とし、これからの共生社会を創り、主体的に行動する実践的職業人として、個性豊かに成長されることを祈念し、入学式の式辞といたします。

令和五年四月二日

羽衣国際大学学長 中川 恵